
灯り祭り

燈 優

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

灯り祭り

【Zコード】

Z9198Z

【作者名】

燈 優

【あらすじ】

祭囃子の響く中で。

ひそりひつそりのぞき見る。

それは切なな憧憬と、叶えぬ小さな小さな願い。

(ブログ掲載済)

明々と灯る提灯が点々と道を彩つている。祭囃子が鳴り響き、参道にはこの日限りの出店が並ぶ。はしゃぐ子供たちの声に威勢のいい掛け声が混ざり楽しげな喧騒を生んでいた。

からこらからこらと鳴り響く下駄に小さな袋に入れられた金魚が通り過ぎる。水面間近で息をする赤色は、一夏が過ぎたときにもその影を牽いていられるだろうか。

楽しそうだと。常に思つてゐる。毎年同じ日に開かれるこの祭りが、年始の祭りとはまた異なり、好きだつた。いつも混じることができず木の影に隠れてお面を被つて。人の眼に触れる」とはいきないと、ずっとずっと言われてきているけれど。

毎年この祭りだけは、ついつい見に来てしまうのだ。

誰にも。見つかりませんように。

じる、と。石畳ならば鳴つてしまつぱつくつも。土の上ならば音は静かに吸い込まれる。わたしの姿をすっかり隠してしまつ木の後ろで、そつと面をつけた顔で覗き見る。

ふとその前を、同じくらいの背格好をした人間の子供たちが通り過ぎ。慌てて隠れた。子供たちは気付かずに、楽しそうに参道の明かりへと紛れてゆく。

ああ。ほんとうは。

大きな人間に手を引かれて歩く小さな子供。その手にはふわふわとしたものが握られていて。

ほんとうは。

小さな神社の小さな参道。そこがまるで世界のこぎやかな全てを

集めてきたかのよつよ。

わたしも一緒に、その光りの中を歩きたいのだ。

祭囃子は遠くなる。少しづつ少しづつ、灯つていた明かりたちが消えてゆく。出店は骨組みすらなくなり、祭りの後の忘れ物たちが参道に転がる。

常の寂しく静かに戻った神社の前に。じろんとひとつ音が鳴る。誰もいなくなつた階段の前に。ゆらりと浴衣の袖が揺れる。お面をしたままのその小さな影は、寂しそうにそこに佇み、こうじるじるじるじるとぼっくつを鳴らす。

来年こやま。

小ちなその手をぎゅっと握り、お面の子供は小さな何かを決意する。面の表情は変わらずに、ふらりと大きな尻尾が揺れた。

誰もいなくなつてしまつた石畳の参道のその先に。片方は欠けた石像と、その向き合いで。

笑んでいるかのような顔をしたお稲荷さんが守つていた。

幾年も幾年も。見守つてきた小さな神社の夏祭り。飽くるほどやれを見て尚思い馳せるは。手を届かせてはいけない領域に、不思議と羨むものがあるのだろう。

からじる、から、じる。音響く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9198z/>

灯り祭り

2011年12月28日20時52分発行